

## 「電気による恩恵」

秋田県立横手清陵学院高等学校 2年 高橋 龍信

私たちの生活と電気はとても密接にかかわっている。なくてはならないものである。明かりをつけたり、テレビを見たり、携帯を充電したり、暖房をつけたりなどで電気を使うことがあるだろう。しかし、停電したときにはこれらのことがいっさいできなくなった。2011年3月11日東日本大震災。この日ほど電気を使うことができない辛さ、不便さを味わったことはない。いつもは当たり前にある電気を使えなくなって初めてそのありがたみに気づくことができた。

その後も何回か停電を経験した。少し不安がよぎったがすぐに復旧し、停電の状態が長時間続くことはなかった。すぐに復旧するとほっとして何事もなかったように過ごす。このように私たちが停電してもすぐに使えるようになるのは電力会社の人たちのおかげである。このことを知ったとき私は感動した。どんな時間帯であろうと、どんな天気であろうとみんなが安心して電気を使えるように働いているのだ。「電気による恩恵」を安定して受け取れているのは電力会社の人たちのおかげである。私たちはこの人たちに感謝しなければならない。

私は将来、電力関係の仕事に就きたいと考えている。みんなが安心して電気を使えるようにしたいと考えたからである。安心して電気を使うには電気を絶やさないことが必要である。停電させないのはもちろんであるが、電気の供給量も考えなければならない。供給できる電気がなければ元も子もない。それには、発電量を増やすか、節電をするかになる。発電量は、電力自由化によって様々な会社が電力を販売できるようになっているので、発電する会社を増やしていけば、電気を安定して供給しやすくなると思う。節電は、使わない電化製品のコードを抜いたり、明るさを調節したりするなどのことを続けていけば消費電力を抑えられると思った。今後、電気のことを深く勉強して、電気を供給し続けることができるようにしたい。